

『大空港構想Next Stage』（熊本都市圏東部地域グランドデザイン）

●策定の基本的な考え方

- ◆ 阿蘇くまもと空港を熊本地震からの創造的復興のシンボルとし、空港のポテンシャルを最大限に引き出し、空港周辺地域の活性化につなげることを目指す。
- ◆ 交流・物流の拠点となる阿蘇くまもと空港や益城熊本空港ICを最大限に活用し、広域的・長期的視点から、当地域の再生・発展に向けた将来像やデザインなどを示す。
- ◆ 県と市町村が密接に意見交換・連携し、このデザイン自体を進化（深化）させつつ、市町村の復興計画との整合を図りながら取組みを進めていくこととする。

●全体の将来像

特に甚大な被害を受けた「空港周辺地域」のポテンシャルを最大限に活かした **創造的復興** の実現



「熊本県経済を力強くけん引する地域」
「誰もが安心して便利に暮らせる地域」

地域への投資を呼び込む3つの視点

- ① 民間活力
- ② イノベーション
- ③ 柔軟な制度運用

●目指す姿

空港

創造的復興のシンボル・起爆剤

- 九州中央に位置する阿蘇くまもと空港の創造的復興による交流人口増大
- 渋滞や待ち時間が少ない、スムーズな空港アクセスの実現
- 九州の安全安心を支える広域防災拠点の実現

- 空港ターミナルビルの創造的な復興・機能強化
(例) ・コンセッション方式の導入による国内線・国際線ターミナルビルの一体的整備・耐震化
- 阿蘇くまもと空港の更なるネットワーク拡大
(例) ・国内線・国際線の定期路線の増便、新規路線の誘致
- 阿蘇くまもと空港へのアクセス改善
(例) ・空港ライナーの本格運行、肥後大津駅の愛称化
・国道443号や県道堂園小森線の整備等
・市内中心部とのアクセスの定時性・速達性の確保に向けたソフト・ハード対策
(東バイパス交差点の立体化・鉄道軌道の検討等)
- 広域防災拠点としての機能強化
(例) ・空港施設の耐震化 ・支援・救援物資受入機能等強化
・総合航空防災センター（仮称）の合築

空港の活性化を産業・暮らしに波及

●目指す姿

産業

新たな産業や雇用の創出

- 柔軟な制度運用による農商工連携・6次産業化の促進や地域資源を活用した新事業の展開
- ICT等の活用による時流を捉えた新たな産業の創造
- 空港やIC、阿蘇の玄関口としての利点を活かした観光産業の振興・発展

- 立地特性を活かした産業の集積
(例) ・柔軟な制度運用による農商工連携・6次産業化の促進
・地域未来投資促進法（仮称）の活用 ・地域資源を活用した新事業の展開
・産業技術センターの更なる高度化による地域イノベーションの創出
- ICT、IoTを活用した新たなサービスの展開
(例) ・スマートモビリティ（自動運転を含む） ・農業でのICT等の活用
- 観光産業の振興・発展
(例) ・空港の情報発信拠点化 ・新たな観光資源の創造による投資環境の整備・雇用の創生

●目指す姿

暮らし

住みたい、暮らしやすい地域の実現

- 災害に強く、安全安心なまちの実現
- 利便性が高く、生活しやすいまちづくり

- 住民サービスの向上及び高質な生活空間の整備
(例) ・防災拠点・住民サービス提供施設の機能強化（庁舎等の耐震化等）
・「すまい」の再建支援や機能的な防災公園等の配置、災害公営住宅等の整備
・狭あいな生活道路の改善等密集市街地の解消
・商店街等の再生とにぎわいの創出
- 交通の利便性向上
(例) ・県道熊本高森線の4車線化等
- 医療福祉の充実
(例) ・熊本市民病院をはじめとした医療機関の再生 ・県内のモデルとなる先駆的事業の実施